

## 建築から鍼灸家を目指して

小柳勝紀

日本国土開発在職中は日興ビルや赤坂第 1 ビル等大型工事を担当させていただき、定年を迎えました。退職前には、社員研修テーマとして東京駅や日本銀行の設計者・辰野金吾の微に入り細ををうがった設計・施工図・原寸図施工法の講義をしたいと進言しましたが取り上げてもらえず、今でも残念に思っています。

退職後は建築家としての未練は捨て、妻も学んだ鍼灸学校に入学し、40 歳も歳下の学生と机を並べて学びました。東洋医学・鍼灸学を学ぶに随い、その三千年、四千年の歴史の重みを感じ、鍼灸の世界にのめり込んでいきました。

鍼灸師として現在、多くの患者の治療に当たっており、東洋医学の一端を私の数例の体験を通して、今後の皆様方の健康で長生きの一助になればと期待しております。

長年のアトピー性皮膚炎に悩まされ病院で 3 年間ステロイドの治療を受けたが悪化の一途の 30 歳男性は母親から奨められ来院し、アトピー性皮膚炎は鍼灸で完治したが 3 年間のステロイドの副作用で残った白内障と脂肪肝を鍼灸で治療中です。

28 歳の女性は突然の高熱に病院でステロイド治療を受けましたが、糖尿病を發しインスリン持参で退院し、その治療を医者訴えたが、医者は「死ぬよりいいでしょう」と匙を投げ、鍼灸治療を行っていますが、膵臓の一部が完全破壊されては強力な鍼灸治療も歯が立たず苦心しています。

昨年暮、癌センター入院患者が現代医学で最善を尽くしたが後数日の余命で危篤とされたが輸血と酸素吸入で 2 泊の外泊許可時に東洋医学をやってみたいとの本人の要望を、詳しい病状を知らされぬまま治療の依頼を受け往診しました。胸水腹水でダルマ状態、足に至っては指がわからない程のムクミで霞ヶ関警察庁のベテランかと疑う程のひどい病状でした。三日連続の鍼灸治療の結果、身体半減。外泊から帰院し、検査の結果体重 10kg の減量と首のコブの消滅で看護師絶句。医者も首のコブも取れてすっきりしたねと一言不思議そうに語り、その後は問答がなかったそうです。程なく病院では治療法はないと退院し鍼灸治療を続け、日に日に健康を取り戻し、3 ヶ月後には 3km ほどの散歩が出来るようになり、一体病院の治療は何なったのか、抗癌剤治療は何だったのかと御家族は不信の極みでした。

極最近、アメリカで腎臓が骨髄を作るとの発表に日本の学者も研究を始めたと放送されたが、東洋医学では三千年前から腎臓は骨髄と関連があり、生まれてくるのも腎の気、生命活動も腎の気、人間の余生も生命の終焉も腎の脈で測る重要な臓器で血液を濾過するだけの単純な臓器でなく、干椎茸などの活性ビタミン D を腎臓から出してカルシウムを骨や骨髄にし、同様に EPO ホルモンを腎から出して骨髄を血液にする重要な役目とされておりました。

高齢者によく処方される漢方薬八味地黄丸(別名腎気丸)は、最近認知症に効果があると発表されております。米国では、釣藤散が血圧に効くと大々的に発表されるなど米国でも漢方薬が多く研究されている様です。

昨年師走には、85 歳の大寺院の奥様がパーキン病、リウマチ、高血圧、不整脈等々で来院、若い 30 歳の青年のうつ病や多くの生活習慣病の治療で新年が始まりました。

OB の皆さんも東洋医学・鍼灸に関心を持ってみませんか。皆さんの健康にお役に立てられれば幸いです。